

表-7.1.1(2) 重要な植物種の移植方法の検討結果 (その4)

種名	確認箇所		繁殖様式		生育環境	移植方法					現況及び移植地の環境状況		移植による 攪乱などの影響	
	障害灯の 改変部	空港施設予 定地	生活 様式等	胞子又は 花粉の 移動様式		種子の散 布様式	採取・ 繁殖方法	播種、移植 等の実例の 有無	使用機材	運搬方法	手法	実験		移植株数
ツルラン (ラン科)	●		草本類・ 地上性	虫媒	自発的散 布	やや湿っ た山地林 床	掘取り 実例有り。	スコップなどによる 根掘り。人力作 業。		植穴に植え込 み水を与え、 乾燥及び土壌 流亡を防ぐた め枯葉等でマ ルチング なお、株分け 及び種子採取 による栽培・移 植については 株移植を補完 する目的で、 必要に応じて 行うものとし る。	実例を参 考にする。	障害灯予定地であるカタフタ 山、水岳のタブノキ・コミノク ツグ群落内の林床に4株。	本種は常緑広葉樹林下に生育する。 航空障害灯予定地については可能な限り改変を避けるものとするが、やむを得ない場合は直近に移植する。 移植地は植生調査を行ったタブノキ・コミノクツグ群落の近辺であり、植生調査結果から草本層(高さ0.8m)の出現種数は22~33種とやや多いが、植被率は5~10%と低いことから、十分な移植スペースを確保できると考える。また、直近に移植することから、土壌条件などは現況とほぼ同一であり、生育環境として適していると考えられる。	航空障害灯予定地については、やむを得ない場合は直近に移植する。直近に移植することから攪乱などの影響はないものと考えられる。
ハシケイラン (ラン科)	●		草本類・ 地上性	虫媒	自発的散 布	やや湿っ た山地林 床	掘取り 実例無し。	スコップなどによる 根掘り。人力作 業。		植穴に植え込 み水を与え、 乾燥及び土壌 流亡を防ぐた め枯葉等でマ ルチング なお、株分け 及び種子採取 による栽培・移 植については 株移植を補完 する目的で、 必要に応じて 行うものとし る。	実例がないため実験が必要	障害灯予定地であるカタフタ 山、水岳のタブノキ・コミノク ツグ群落内、オオバギゲッキン群 落内、リュウキュウマツ群落内の 林床に36株。	本種は低地の自然林林床に生育する。 航空障害灯予定地については可能な限り改変を避けるものとするが、やむを得ない場合は直近に移植する。移植地はタブノキ・コミノクツグ群落内、オオバギゲッキン群落内、リュウキュウマツ群落内である。 タブノキ・コミノクツグ群落の移植地は、植生調査を行ったタブノキ・コミノクツグ群落の近辺であり、植生調査結果から、草本層(高さ0.8m)の出現種数は22~33種とやや多いが、植被率は5~10%と低いことから、十分な移植スペースを確保できると考える。 また、移植地と同一植生のオオバギゲッキン群落の植生調査結果から、草本層(1~1.6m)の植被率は20~80%となっており、草本層の植被率が高くなっている所がある。移植地のオオバギゲッキン群落も同様であると考えられるが、植被率が低い所を選ぶことにより移植スペースは確保できると考える。 リュウキュウマツ群落内の移植地は、植生調査を行ったリュウキュウマツ群落の近辺であり、植生調査結果から草本層(高さ0.8m)の出現種数は20種とやや多いが、植被率は10%と低く、移植スペースは十分に確保できると考える。 いずれの移植地においても直近に移植することから、土壌条件などは現況とほぼ同一であり、生育環境として適していると考えられる。	航空障害灯予定地については、やむを得ない場合は直近に移植する。直近に移植することから攪乱などの影響はないものと考えられる。
テウオサキノソウ (ラン科)	●		草本類・ 地上性	虫媒	自発的散 布	湿った山 地林床	掘取り 実例無し。 同属のリュウ キュウマツで 実例有り。	スコップなどによる 根掘り。人力作 業。		植穴に植え込 み水を与え、 乾燥及び土壌 流亡を防ぐた め枯葉等でマ ルチング なお、株分け 及び種子採取 による栽培・移 植については 株移植を補完 する目的で、 必要に応じて 行うものとし る。	実例がないため実験が必要。 リュウキュウマツ、ダイオウの実例を参考にする。	航空障害灯予定地であるカタ フタ山、水岳のタブノキ・コミノク ツグ群落内、オオバギゲッキン 群落内、リュウキュウマツ群落 内の林床に37株。	本種は山地自然林の陰湿な林床に生育する。 航空障害灯予定地については可能な限り改変を避けるものとするが、やむを得ない場合は直近に移植する。移植地はタブノキ・コミノクツグ群落、オオバギゲッキン群落、リュウキュウマツ群落である。 タブノキ・コミノクツグ群落の移植地は、植生調査を行ったタブノキ・コミノクツグ群落の近辺であり、草本層(高さ0.8m)の出現種数は22~33種とやや多いが、植被率は5~10%と低く、十分な移植スペースを確保できると考える。 移植地と同一植生のオオバギゲッキン群落の植生調査結果から、草本層(1~1.6m)の植被率は20~80%となっており、草本層の植被率が高くなっている所がある。移植地のオオバギゲッキン群落も同様であると考えられるが、植被率が低い所を選ぶことにより移植スペースは確保できると考える。 また、リュウキュウマツ群落の移植地は植生調査を行ったリュウキュウマツ群落の近辺であり、植生調査結果から、草本層(高さ0.8m)の出現種数は20種とやや多いが、植被率は10%と低く、移植スペースは十分に確保できると考える。 いずれの移植地においても直近に移植することから、土壌条件などは現況とほぼ同一であり、生育環境として適していると考えられる。	航空障害灯予定地については、やむを得ない場合は直近に移植する。直近に移植することから攪乱などの影響はないものと考えられる。